

飛騨農林事務所の普及活動状況（令和8年4月30日現在）

今月の重点活動

■トマト・トマト3Sシステム現地研修会が開催

飛騨地域では、スマート農業技術「夏秋トマト3Sシステム」の導入が進んでおり、令和8年度は新たに1名の生産者が同システムでトマト栽培を開始している。近年の資材価格高騰に伴い、施設導入費や栽培コストが経営を圧迫しており、新規導入者にとって基本技術の習得と単収の確保が早期経営安定に必要なとなっている。

4月2日には、高山市トマト生産者ほ場において、高山3Sシステム研究会の現地研修会が開催された。研究会代表からは、関係機関との連携し情報共有をしながら、本年も栽培に向かっていきたいという旨の挨拶があった。中山間農業研究所の研究者からは、3Sシステムの基本的な説明があり、出席した生産者は、トマトの生育状況を見ながら活発に意見交換を行った。

農業普及課では、今後もJA営農指導員や関係機関と連携し、研修会や現地指導を通じて3Sシステム導入者の単収向上を図るとともに、同システムの新規導入を支援していく。



【研修会の様子】

新たな担い手の確保

■認定農業者・新たに12経営体の認定農業者が誕生

高山市において、5年後の経営目標となる「農業経営改善計画」の認定を受け、今年度新たに12経営体が認定農業者となった。

4月16日には、認定書授与式が開催され、7名の経営体代表者が出席し、田中市長から認定書が授与された。

飛騨管内の農業の多彩さを反映し、トマトやホウレンソウ、パプリカの施設園芸を中心に、畜産や水稻、果樹と幅広い経営品目で認定された。また、経営継承や新規就農者からステップアップした農業者も多く、飛騨管内の農業の発展に若手認定農業者の更なる活躍が期待される。

飛騨管内には600を超える経営体が認定農業者となっており、農業普及課では、市村やJAと連携して、各経営体の経営改善計画の実現に向けて支援を進める。



【新たな認定農業者】

潜在力をフル活用した生産強化

■ほうれんそう・JA全農岐阜飛騨青果物パッキングセンター本格稼働開始

ほうれんそうは、調製作業の負担が大きく雇用労働に頼っているが、昨今の人手不足により労働力の確保が難しくなっている。また、広い調製場が必要なことも新規に取り組む壁となっている。

JA全農岐阜はその打開策として、この度パッキングセンターを立ち上げ、4月9日に正式稼働した。

当日は2戸の生産者から44コンテナの出荷があり、15人の従業員により調製し、袋詰めが行われました。

パッキングセンターへの出荷を希望している生産者は26戸で、日量500箱の出荷を目標としており、農業普及課では、円滑な運営と利用定着に向け、関係機関と連携しながら生産者への技術指導や出荷体制の整備支援を行っていく。



【調整作業の様子】

■水稲・育苗状況について

飛騨地域では、JAひだで播種、出芽管理された水稲苗が、JAから委託を受けたハウスを持つ農家の下で、緑化、硬化管理されて水稲生産者に供給されている。

4月30日、JAひだ担当者とともに高山市丹生川町の育苗ハウスを巡回し、管理状況の確認を行った。春期は昼夜の気温差が大きいが、水稲の生育に適するよう、こまめなハウス内の温度管理が実施されており、概ね順調に生育していた。

飛騨地域では、コシヒカリなどの良食味うるち品種、特色あるもち、酒米品種が栽培されており、農業普及課では、今後も育苗管理や栽培管理にかかる情報提供などの支援を行っていく。



【育苗状況確認の様子】